

検鏡によるアジサイの促成栽培における品質向上

～失敗しないアジサイの促成栽培 株冷蔵前の花芽検鏡のススメ～

青木 献（東三河農林水産事務所田原農業改良普及課）

【平成24年3月15日掲載】

【要約】

アジサイは、秋の気温の低下により花芽分化を開始し、その後休眠に入る。全国でも有数のアジサイ産地である田原市では、冷蔵により休眠を破り早期に出荷する促成栽培が行われているが、冷蔵を始める時期が適切でなかったり、冷蔵期間が不十分である等の理由で、開花が不揃いになる事例が見られる。そこで冷蔵前に花芽の状態を確認し、適切な時期に冷蔵を開始することで開花を揃え、鉢花品質を高めることができる。

1 はじめに

近年、アジサイの母の日需要に向けた出荷が好調で、多くの生産者が3～6月の長期間の出荷を実現するために株の冷蔵を行っている。

アジサイの開花生理を図1に示したが、花芽が十分に発達していない株を冷蔵した場合や、冷蔵日数が短くて低温による休眠打破が不十分な段階で加温を開始した場合に、開花揃いが悪く、花房が小さくなる等の問題が生じている。

そこで、株冷蔵前に花芽の状態を確認することによる開花揃いの改善について検討したので紹介する。

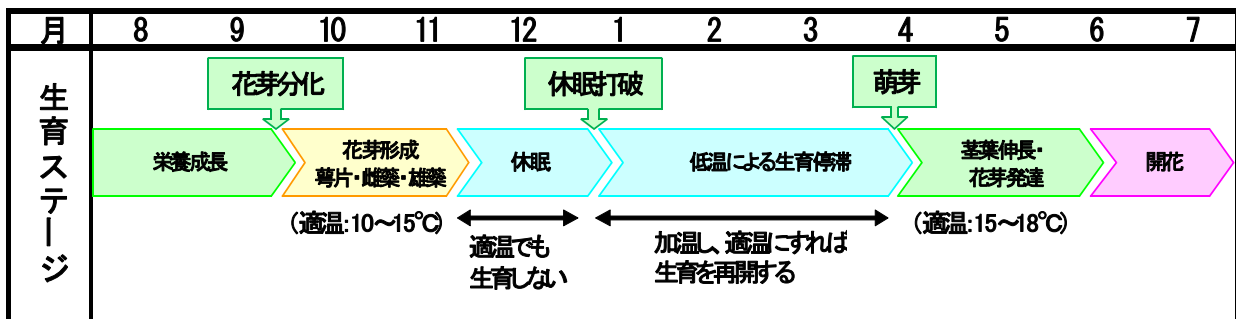


図1 アジサイの開花生理（自然条件下）

※花芽分化は、18℃以下の涼温で誘導される(25℃以上では抑制)

※休眠打破には、一定期間の低温遭遇が必要(5℃以下で40~50日)

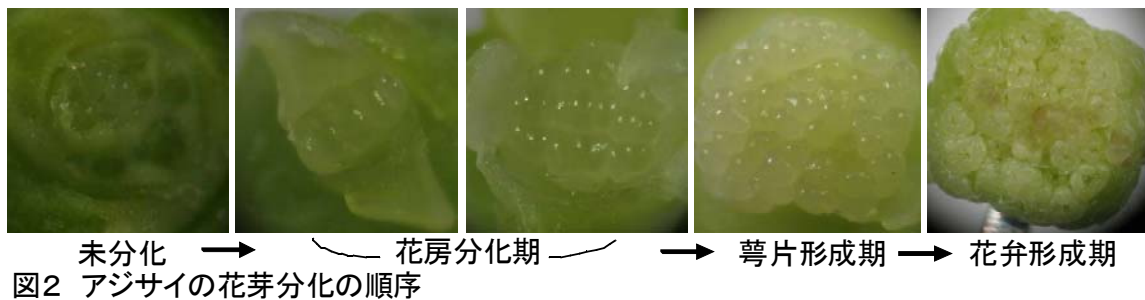
2. 花芽の状態の観察（検鏡）方法

アジサイの花芽の状態を観察するには、ピンセットとルーペ（あるいは実体顕微鏡）を用いる。ピンセットを用いて未展開葉を1対ずつ剥がしていくと、生長点が露出するので、露出した生長点をルーペで観察するが、発達した花芽は肉眼でも観察できる。

3. アジサイの花芽分化

アジサイの花芽分化は、秋に気温が18℃程度に下がると始まると言われている。未分化の状態から、花房分化期→萼片形成期→花弁形成期の順に進み（図2）、その後休眠に入

る。花芽分化の開始時期は、気象条件、ピンチ時期、株の栄養条件などによって変化し、品種の違いによっても大きな差がある。花芽分化は同じ株の中では、節数が多く長い枝ほど、また太い枝ほど早い傾向がある。



4. 冷蔵開始時の花芽の状態、冷蔵期間の違いが開花に及ぼす影響

品種は「ババリア」を供試した。株のなかで一番大きな花芽を検鏡したところ、平成22年11月11日時点では「萼片形成期」、11月26日時点では「花弁形成期」であった。検鏡した株は、11月11日、11月26日、及び12月10日に冷蔵を開始し、1月5日に冷蔵庫から出して加温し、開花まで栽培した。

平成23年3月25日に開花状況の調査を行ったところ、開花揃いが最も良かったのは11月26日（冷蔵期間40日）から冷蔵した区であった。11月11日（冷蔵期間55日）、12月10日（冷蔵期間25日）では、開花が揃わない、花が小さい等品質が劣った（図3）。

なお、品質が劣った要因としては11月11日から冷蔵した区は、花芽が十分に発達していなかったため、12月10日から冷蔵した区は、冷蔵期間が不十分だったためと考えられる。



11月11日冷蔵開始 (55日冷蔵) 11月26日冷蔵開始 (40日冷蔵) 12月10日冷蔵開始 (25日冷蔵)

図3 冷蔵開始日、冷蔵期間と開花(品種:ババリア 平成23年3月25日撮影)

5. まとめ

以上のように、より適切な時期に冷蔵処理を開始し、十分な冷蔵期間を確保することは、高品質のアジサイを長期間出荷するためにとっても重要である。

アジサイの花芽分化には、品種、気象条件等の違いによって大きな差があるため、冷蔵を開始する前に花芽の状態を観察(検鏡)して、十分に花芽が発達(「花弁形成期」以降)したことを確認し、しっかり低温に遭遇させることで、アジサイの促成栽培における開花揃いを改善することができる。